

## 2 研究の成果と課題

### (1) 成果

#### ① 児童の意識から（児童の意識調査より）

ア 「外国の言葉を勉強してみたいですか」「外国の人と話してみたいですか」という質問に対して、おおむね9割の児童が「はい」と答えている。外国の言葉や文化に対する関心がある上に、ALTとのいろいろな活動を通して、外国文化に慣れ親しもうとする態度が身に付きつつある。

イ 「学校の友だちやたくさんの友だちの前で話すことは好きですか」という質問に対して、「好き」が56%から79%に大きく増加している。自分を表現することの苦手意識が克服されつつある。

ウ 「学校の友だちやたくさんの友だちの前で話すことがうまくできますか」という質問に対して、「あまりできない」「できない」という児童が減り、「できる」児童が28%から45%と大きく増加した。自信をもって自分を表現する自己表現力が高まり、コミュニケーション能力の素地が育成されつつある。

#### ② 児童の姿から

ア ALTと授業を行うことで、歌やチャンツ、会話をする時に、大きく体を動かしたり、顔の表情が豊かになってきた。

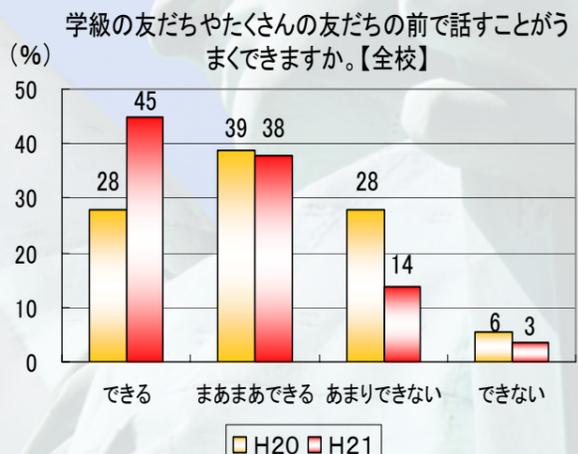
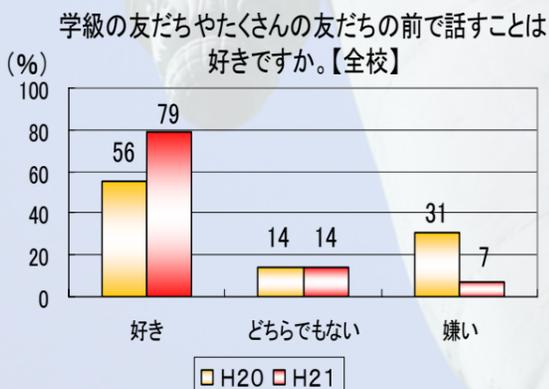
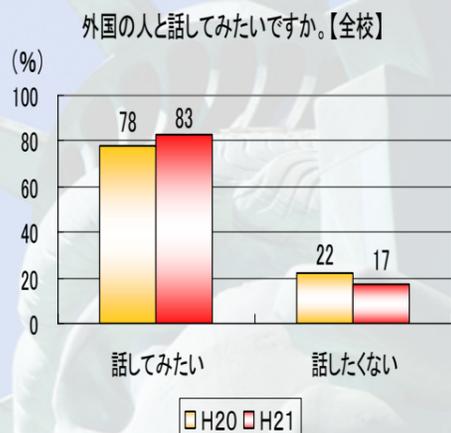
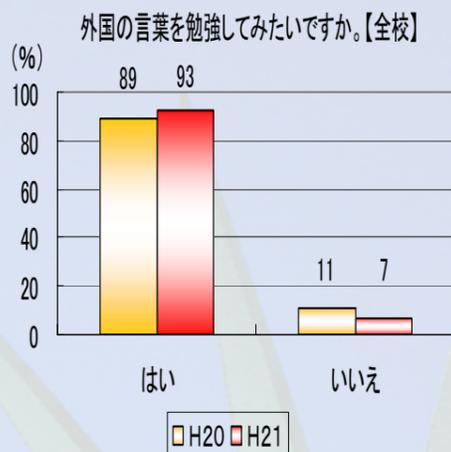
イ 多様な表現活動を取り入れたり、ゲームを工夫したりすることで、児童は十分に楽しさを味わうことができ、積極的に学習に取り組む姿が見られた。

ウ 英語でのあいさつは、その時の自分の状態や感情に合った言葉を選んで適切に使い分けできるようになった。

エ ALTの話真剣に聞き取ろうとしたり、発音を真似ようとしている姿が見られるようになってきた。

#### ③ 教師の姿から

学級担任主導で授業を進めてきたことで、短い時間でALTと打ち合わせをしたり、児童の様子に合わせて臨機応変に対応したりすることができるようになってきた。



### (2) 課題

① 外国の文化や自国の文化への関心をもたせ、それぞれのよさを追究する学習を、総合的な学習の時間や道徳の時間との関連を明確にして計画的に進めていく必要がある。

② 現在は、ゲームや歌・チャンツの楽しさが外国語活動の楽しさにつながっているが、これからは「自分のことを言いたい」「相手のことを知りたい」という感情や知的好奇心を高めるような学習活動の工夫をしていきたい。

③ 学級担任は、クラスルームイングリッシュの練習と、日本語を使う場面と英語を使う場面の有効な使い分けについて研修に努める。

# 平成20・21年度行方教育部会指定 授業公開並びに研究発表会

## 研究概要

児童一人一人が生き生きと取り組む外国語活動の在り方  
～コミュニケーション能力の素地の育成を目指して～

講師  
行方市教育委員会学校教育課  
指導室長 ○○ ○○ 先生  
指導主事 ○○ ○○ 先生

平成21年11月20日(金)

行方市立大和第三小学校

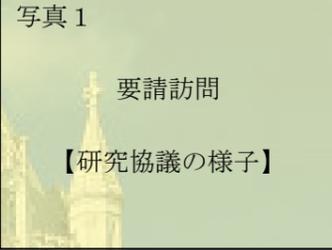
# I 研究の概要

## 1 研究主題

児童一人一人が生き生きと取り組む外国語活動の在り方  
～コミュニケーション能力の素地の育成を目指して～

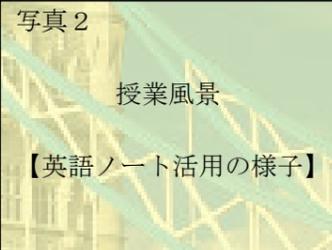
## 2 主題設定の理由

- (1) 小学校学習指導要領外国語活動の目標から  
外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。
- (2) 学校教育目標から  
豊かな心と考える力をもち、たくましくはげむ児童の育成
- (3) 本校児童の実態から
  - ① 素直で明るく、指示された学習活動にはまじめに取り組むことができる。
  - ② 自主的に課題を見つけたり、主体的に判断し行動することが難しい。
  - ③ 積極的に自分の思いを表現することが苦手である。



## 3 外国語活動におけるめざす児童像

- (1) 言語や文化の多様性に気付き、それらを受け入れようとする子
- (2) 積極的にコミュニケーションを図ろうとする子
- (3) 外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しもうとする子

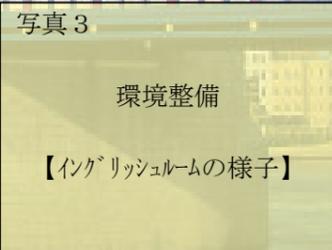


## 4 研究のねらい

コミュニケーション能力の素地の育成を目指して、児童一人一人が生き生きと取り組める外国語活動の在り方を究明する。

## 5 研究の仮説

- (1) ALTとの体験的なコミュニケーション活動を行えば、異文化に慣れ親しむだろう。
- (2) コミュニケーションのもつ楽しさや喜びを味わうことができれば、相手に伝えたり相手の思いを聞き取ったりする態度を育てることができるだろう。
- (3) 児童の興味・関心や発達段階を踏まえた授業を展開すれば、英語表現や言語材料に親しみ、積極的に使うようになるだろう。



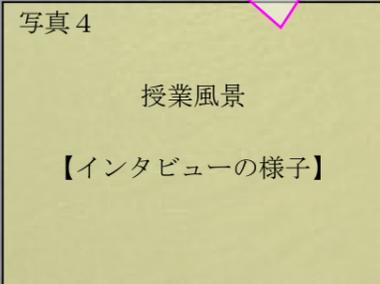
## 6 研究の内容

- (1) 効果的な指導方法の工夫
- (2) ALTの効果的な活用
- (3) 学習環境の整備
- (4) 児童の実態把握

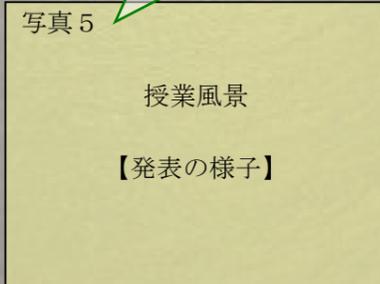
## 7 基本的な考え方

- (1) 生き生きと取り組む児童の姿とは  
児童一人一人が自分のよさや可能性を発揮しながら、意欲的・主体的に活動し自己成就感をもって行動する姿
- (2) コミュニケーション能力の素地とは
  - ① 言語や文化に対する体験的な理解
  - ② 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度
  - ③ 外国語の音声や基本的な表現への慣れ親しみ

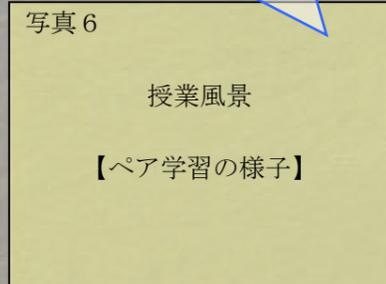
How many ○○○ ?



I like ○○○.



Do you like ○○○ ?



# II 研究の実践

## 1 研究の実践

### (1) 効果的な指導方法の工夫

#### ① 学習過程の工夫

	学習過程	主な活動
1	Greeting (あいさつ)	・クラス全体であいさつ ・ALTとの個別のあいさつ
2	Warm-up	・チャンツ・歌・絵本 ・ALTのShow&Tell
3	Main Activities (本時の活動)	・インタビュー ・役割演技 ・Dialog (対話) ・Show&Tell ・ゲーム ・絵本
4	Conclusion (まとめ)	・自己評価 ・相互評価 ・クラス全体であいさつ

#### ② 多様な表現活動の導入

##### ア 歌・チャンツ

体を動かしながら発音することで、児童の緊張を解き、英語のもつ楽しい雰囲気を作り出したり、英語独特のリズムやイントネーションに慣れたりすることができる。

##### イ ゲーム

楽しく活動するうちに、主体的に人と関わり、英語の音声や簡単な表現に親しむことができる。

##### ウ インタビュー

友達同士での「相手の話を聞く」「自分のことを話す」という交流を通して、自分の「思い」を互いに伝え合うことができ、コミュニケーションの楽しさを味わうことができる。

##### エ 役割演技

場面を設定し役割演技をすることで、無理なくコミュニケーション活動に慣れ親しむことができる。

##### オ 絵本

絵本を通して、英語のリズムや表現に親しみ、異文化にふれることができる。

##### カ Dialog (対話)

インタビューゲームなどをする前に、ペアでの対話練習をすることで自然にコミュニケーション活動に入ることができる。

### (2) ALTの効果的な活用

	学級担任の役割	ALTの役割
計画	・児童の興味・関心に基づいて指導計画を立て指導内容や活動を考える。 ・ALTと協力して教材や教具を準備する。	・学級担任が指導計画を考える際に、外国語指導の点から協力する。
実施	・児童に活動のねらいや留意点を伝える。 ・ALTや児童に指示を出し、授業を進める。 ・ALTとデモンストレーションを行い活動の手本を見せる等、英語学習者としてのモデルになる。 ・必要に応じて、日本語で補助する。	・モデルリーディング(範読)を行う等、ネイティブスピーカーとして、学級担任を支援する。 ・児童のコミュニケーションの相手になり、英語の音声を直接聞かせる。 ・自国を含めた様々な国の習慣や文化等を児童に伝える。 ・児童をほめて自信をもたせ、よいところを伸ばす。
評価	・評価をする。	・学級担任に、評価に関する情報を提供する。

### (3) 学習環境の整備

#### ① イングリッシュルームの開設

空き教室を利用して活用している。英語や世界の文化に触れることができる環境を作り、異文化に触れる場とする。

#### ② 給食・清掃の時間

放送でチャンツや英語の歌を流すことで、英語に慣れ親しむようにする。

### (4) 児童の実態把握

アンケートを実施して、児童の興味・関心や学習状況の変容を把握する。